

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
児童青年心理学		選択	2	(リ) 2.3 (人) 2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
前川 真奈美	B304	manami.maekawa	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 児童期・青年期の心身の発達的変化の特徴を学ぶ。また、その知識をもとに自分自身や周囲の他者について振り返り、自己研さんする姿勢や多様性を尊重する姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 児童期・青年期の発達的変化について、主に身体・運動機能、認知機能、対人関係、社会性の観点から解説する。さらに、児童期・青年期と関連の深い発達障害、不登校を取り上げ、ワークを取り入れながら理解を深める。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ Debate <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク )				
学習上の助言	オフィスアワーの他、講義中やリアクションペーパーを活用し、積極的に質問して理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	問いからはじめる発達心理学/著:坂上裕子、山口智子、林創、中間玲子/有斐閣/2014年				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	児童期・青年期における発達的変化の特徴を理解し、体系的に説明できる。			HSU (2)、HC (5)	
②	心理学の視点から、自分自身がどのような過程を経てきたのかを理解し説明できる。			HSU (2)、HC (5)	
③	心理学の視点から、自分自身が現在どのような時期にあるのかを理解し説明できる。			HSU (2)、HC (5)	
④	①~③をもとに、今後の自分の生き方について考え、自己研さんに励むことができる。			HSU (6)、HC (4)	
⑤	子どもや同年代について発達心理学の視点から理解を深め、接し方に配慮できる。			HSU (1)、HC (1) (3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 生涯発達の考え方について学ぶ。	講義・GW	<予習> 「学習内容等」欄に書かれたキーワードについてインターネット等で調べる。  <復習> 講義内容とこれまでの自分の体験を照らし合わせ、共通点や相違点を見つける。 配布資料をもとに講義内容を整理し、リアクションペーパーを提出する。 そのうえで知識の定着を意識して復習を行う。	2	
2	児童期 1: 身体・運動の特徴について学ぶ。	講義・GW		4	
3	児童期 2: ピアジェの認知発達理論の概要を学ぶ。	講義・GW		4	
4	児童期 3: 認知機能の発達 (感覚運動期、前操作期、具体的操作期の特徴) について学ぶ。	講義・GW		4	
5	児童期 4: 対人関係の特徴について学ぶ。	講義・GW		4	
6	児童期 5: 社会性 (感情理解) の発達について学ぶ。	講義・GW		4	
7	児童期 6: 社会性 (道徳性) の発達について学ぶ。	講義・GW		4	
8	青年期 1: 身体と性の特徴について学ぶ。	講義・GW		4	
9	青年期 2: 認知機能の発達 (形式的操作期の特徴とメタ認知) について学ぶ。	講義・GW		4	
10	青年期 3: 自己の特徴について学ぶ。	講義・GW		4	
11	青年期 4: 対人関係の特徴について学ぶ (1)。	講義・GW		4	
12	青年期 5: 対人関係の特徴について学ぶ (2)。	講義・GW		4	
13	児童期・青年期と関連の深いテーマ: 発達障害の概要や求められる支援について学ぶ。	講義・GW		4	
14	児童期・青年期と関連の深いテーマ: 不登校の概要や求められる支援について学ぶ。	講義・GW		4	
15	これまでの学習の総括を行う。	講義		6	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合 力 指 標	知識・技術力	55	0	0	0	5	60
	思考・推論・創造する力	5	0	0	0	10	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	5	0	0	0	5	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	5	0	0	0	5	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。定期試験では、専門用語について問う選択問題と、講義で扱った知識をもとに自らの考えをまとめる論述問題を出題する。(70点満点)				Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎講義後に Teams 上でリアクションペーパーの提出を求める。講義内容に関する気づき、考察、疑問などが具体的に記述されているかを評価する。(全 15 回、各 2 点満点で計 30 点満点)				講義中にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	専門性とこれまでの経験をもとに、受講生がイメージしやすい具体例や実践的な情報を交えながら授業を進める。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1～12 回の講義後に、講義内容の理解度を測る確認問題を実施する。意欲的に取り組み、知識の定着に役立ててほしい。</li> <li>自らの考えを記述する課題（リアクションペーパー、筆記試験の論述問題等）において、生成 AI の出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は評価の対象外とする。</li> </ul>						